

草津市自立支援協議会 部会・プロジェクト活動報告

部会・PJ名	草津市障害者(児)自立支援協議会 相談支援部会		報告者	河地千衣
部会長	河地氏(にぎやか会・相談支援事業所 歩歩)			
副部会長	白井氏(こなん SSN・相談支援事業所 大地)			
参加機関 委員	草津市障害福祉課//法人本部企画事業部 ケアシステム推進課(グロー) ㊦精神障害者地域生活支援センター風(周行会)//大地(こなん SNN)//わかたけ(若竹会)//ディフェンス(ディフェンス)//アザレア(アザレア)//ライフケア向日葵(ふくろう)//草津市障害者福祉センターほっとココ(草津市心身障害者連絡協議会)//歩歩(にぎやか会) ㊧クロスロード(REDB&BLUE)//おひさまハウス(SUNNYSIDE)//スマイル空(企画組合労協センター事業団)//発達支援センター 14 機関			
事務局	草津市障害者福祉センター			
活 動 報 告				
今年度のねらい	・草津市における課題を抽出し、提言していく。 ・相談支援事業所間の交流や研修を実施し、必要な知識やスキル等の向上を目指す。			
回数	開催日時	概 要	参加数	
第 1 回	令和 3 年 5 月 19 日 13 時 30 分～ 15 時 30 分	【テーマ】「相談支援の仕組み・報酬改定の理解から考える。」 【会 場】草津市立障害者福祉センター 【内 容】①滋賀県障害者自立支援協議会事務局の大平氏を招き、報酬改定の概要や報酬改定後のポイントの講義、勉強会。質疑応答。 ②今回の報酬改定に伴い、試算シートを用いて前年度の報酬額と比較を行う。 ③「草津市相談支援体制プロジェクト会議」からの報告。 ④意見交換会 ⇒・相談業務を実施する中で、生きる意味の探求とありのままでよいという軽やかさのバランスの難しさ ・緊急時の際、資源が少ないため調整が難しい。 ・利用者さんからの相談員への心無い言葉に精神が擦り切れる思いになった。 ・計画書作成以外の業務量が多く、計画書の作成が滞ってしまう。 ○一人職場の相談員が多く、仕事を遂行する中で不安や悩みを抱えている。相談員へのメンタルサポートの必要性。 ○短期入所施設、緊急対応事業の施設がない。資源不足が課題。	機関数 11 機関 人数 18 名	

第2回	令和3年 7月21日 13時30分～ 15時30分	<p>【テーマ】事例検討会</p> <p>【会場】草津市立障害者福祉センター</p> <p>【内容】①「多機関が関わっている要保護対策協議会の対象児への支援の取り組み」について 発達支援センターの倉田氏より事例提案。ピカジップ法にて事例検討会を実施</p> <p>②新規相談【一般相談・計画相談】の相談応受状況報告(センター長 涌井氏より)</p> <p>③「草津市相談体制プロジェクト」の現状報告・相談支援事業所の巡回訪問について(基幹相談支援コーディネーターより)</p> <p>④意見交換会</p>	<p>機関数 11機関</p> <p>人数 14名</p>
第3回	令和3年 9月15日 13時30分～ 15時30分	<p>【テーマ】介護保険と障害福祉の連携</p> <p>【会場】草津市立障害者福祉センター</p> <p>【内容】①「介護保険と障害福祉の連携」 ゲスト:玉川地域包括支援センター長 島村氏</p> <p>○機関相談コーディネーターより、介護保険と障害福祉の連携の必要性について、事例や課題を通して現状報告</p> <p>○各相談員が、介護移行に際しての現状や難しさを意見交換する。</p> <p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険に移行する際、どのような暮らしをされてきたのか、ケアマネジャーは分からない。ケアマネジャーや行政との引継ぎや連携の重要性 ・介護保険移行について、本人は納得・理解しているのか。 ・行政との役割分担 ・相談員の説明する力の重要性 ・多職種連携の必要性 	※ zoom で開催
第4回 (予定)	令和3年 11月17日～ 13時30分	<p>【テーマ】(案)相談支援事業の成り立ちと相談支援の質の向上について</p> <p>【会場】草津市立障害者福祉センター</p>	
総評	<ul style="list-style-type: none"> ・草津市における資源の強みと弱みを抽出し、実態を把握 ・重層的支援体制の整備 ・多職種連携、相談員同志の連帯感、情報共有の重要性 ・事業所の半数が相談員の一人職場である。孤独感・煩悶感⇒相談員のメンタルサポートの必要性 		